西部地域の乳用牛のヨーネ病全頭検査が完了

下関農林事務所畜産部
平成21年12月1日

ヨーネ病は牛に慢性頑固な下痢を引き起こし、全国的にも発生が多い家畜伝染病のひとつです。

西部地域は県全体の乳用牛飼養頭数の約50%を占める酪農地帯で、4月から6ヶ月齢以上の全ての乳用牛を対象にヨーネ病検査を実施してきましたが、11月で1,360頭の検査を終了し全て陰性を確認しました。

今後も引き続き県外導入牛や共進会出品牛等の検査を継続することで感染拡大しないよう、早期発見・摘発・淘汰することにより、清浄化の推進とまん延防止に取り組んでいきます。

抗体検査実施状況